

インターバンクの声（2017年4月20日）

最近は動きが小さいとされているユーロや豪ドルだが、今週になってからはしっかり100ポイント以上変化している。英ポンドもこの一ヵ月間ほど1.23ドル台中盤から1.26ドル台前半の比較的狭いレンジ内での取引を続けていたが、一昨日から昨日にかけては一気に300ポイント超の変化を見せている。

ただ日本人にとっては一番取引しやすいと思われるドル円は、先週12日以降、108円台前半から109円台後半のレンジが続いている。さらに13日の東京時間以降に限れば、ドルの上値は50銭ほど下がり、レンジ幅はおよそ1円20銭余りに狭まる。もちろん英ポンドについては、メイ英首相が2020年5月に予定されていた総選挙を今年6月に前倒して実施する方針を表明するというビッグ・ニュースがあったこともあがるが、ドル円については売買の判断になる材料が今一つ確定せず身動きが取れないのだ。

一番の北朝鮮をめぐる地政学リスクにしても、事態が平和裏に収拾に向かえば急激に低下するし、トランプ大統領の円安けん制発言にしても真意がどこにあるのか見極め難い。

ドル円は5月に入ってから韓国大統領選挙までは封印して、日曜日にある仏大統領選挙第1回投票に注視してユーロの取引に挑んでも良いかもしれない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。